

## CONTENTS

秋季企画展 日本近代法学の祖 箕作麟祥	2
津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム	3
洋学資料館友の会創立 35 周年記念事業	4・5
冬季企画展 海田の医家山田家の人と学問	6
資料館展示品から・NEWS FILE	7
INFORMATION (催し物のご案内)	8

# 洋学 資料館

No. 19

February, 2017

ここは月田川沿いに位置する真庭市月田です。1813（文化10）年、この地から医師・佐野隆蔵が大坂の華岡流医塾・合水堂に入門しました。しかし門人録の入門日以外、隆蔵の具体的な医療活動などについては分かっておらず、長年の調査を経て2年前にようやく墓所や屋敷の場所を確認することができたのでした。写真手前の左端が隆蔵夫妻のお墓です。墓誌から、隆蔵が入門後わずか15年でこの世を去ったことが分かります。眼下には月田の町並みが広がり、没後も地域の人々を見守っているようです。（真庭市月田）

写真提供：下山純正 氏



津山洋学資料館  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

秋季企画展 生誕170周年記念

# 日本近代法学の祖 箕作麟祥

会期：平成28年10月8日（土）～11月6日（日）

箕作麟祥は、1846（弘化3）年に江戸の津山藩邸で生まれまし  
た。祖父は津山藩医で洋学者として名高い箕作阮甫、母はその四女  
ちま、父は阮甫の弟子で世界地図「新製輿地全図」を作り、幕末の志士  
たちに影響を与えた省吾。麟祥は、箕作家の洋学研究の系譜を受け継  
ぐ、待望の長男であり、阮甫にとつては初孫でした。

長じて蕃書調所に出仕し、1867（慶応3）年にはパリ万国博覧  
会に派遣された徳川昭武に随行。この際フランス語を習得したこと  
で、帰国後、明治政府からフランスのナポレオン法典の翻訳を命じられ  
、『仏蘭西法律書』と題して刊行します。この書はヨーロッパの近代法  
の全文を、初めて日本で紹介しました。

そして、その頃まだ日本になかった制度や概念を苦勞して訳し、数々  
の法律の用語を作り出しました。「憲法」という言葉も、現代用いる  
意味で使ったのは麟祥が最初なのです。

さらに、民法をはじめとする各種法律の制定に携わったことなど、  
その業績は枚挙に暇がありません。近年こうした麟祥の業績は、様々  
な分野から研究、評価がさらに高まっております。生誕170周年を機に、  
麟祥のルーツである津山でその生涯と功績を紹介したいと思い、本展  
を開催しました。

観覧された方からは、「麟祥が明治の近代国家建設に果たした役割  
の大きさを改めて感じた」「これ程の人物が津山ゆかりであることに  
誇りを感じた」などの声が多数寄せられました。

最後になりましたが、本展の開催にあたり、箕作家をはじめ、国立  
国会図書館、東京大学法学部研究室図書室の皆さまに甚大なるお力添  
えを賜りました。記して厚くお礼申し上げます。



津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム

## 海外留学の志 — 波濤を越えた津田真道の思い —

講演 「文久2年出発の幕府オランダ留学生一行について」

— 榎本武揚・津田真道・西周を中心に —

東洋大学教授

岩下 哲典 先生

「津田真道の政治構想 — オランダ法学と近代日本の建設 —」

慶應義塾大学准教授

大久保健晴 先生

「津山における津田真道の顕彰をめぐる」

津山洋学資料館元館長

下山 純正 先生

討論 岩下哲典 先生・大久保健晴 先生・下山純正 先生

主催：公益財団法人上廣倫理財団・津山市教育委員会 / 後援：文化庁・岡山県教育委員会

11月19日（土）、津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラムを開催  
しました。これは、公益財団法人上廣倫理財団の支援を受けて、平成  
23年から毎年開催しているものです。今年は例年と構成を変え、3人  
の先生を講師にお迎えし、30分ずつのご講演の後、討論をしていただ  
きました。テーマは、津山出身で、幕末にオランダへ留学し、明治政  
府の官僚となった津田真道です。

最初に岩下哲典先生が、1862（文久2）年に幕府が派遣したオ  
ランダ留学生は、真道や西周ら多くが明治期に様々な分野で活躍する  
人材となったことや、その成功理由についてご説明されました。

続いて大久保健晴先生が、真道がオランダ留学中にフィッセルング  
教授から学んだ法学の知識を、いかに明治の近代国家建設に活かして  
いったかをお話しされ、最後に下山純正先生が、平成9年に津山市と  
津和野町が実施した「津田真道・西周顕彰事業」で、二人の留学地ラ  
イデンに記念プレートを設置したことを紹介されました。

講演後の討論は、参加者の質問に答える形で行われました。真道の  
地元上之町の方も多く聴講に訪れており、真道の業績を改めて考えさ  
せられるお話に、熱心に聞き入っていました。

# 洋学資料館友の会創立35周年

資料館が開館して3年後の昭和56年3月に産声を上げた友の会は、昨年創立35年を迎えました。前年度にはプレ事業として「和蘭カルタ」を復元再版し、今年度も様々な記念事業を実施しました。



## 創立35周年記念研修バス旅行

9月10日(土)と11日(日)、一泊二日で記念研修バス旅行「幕末の雄藩 佐賀が育んだ蘭学史めぐり」を実施しました。佐賀藩は江戸時代後期、藩主鍋島直正の主導で藩政改革を実施。洋学を積極的に導入して優れた科学技術を有し、日本の近代化の推進力となりました。そのため佐賀にはたくさん洋学関係史跡が残されているのです。

早朝、津山をバスで出発し、7時間かけて最初の目的地佐賀城本丸歴史館へ。復元さ



▲佐賀城本丸歴史館 ボランティアガイドの小寺豊二さんにご案内いただきました。



▲世界遺産「明治日本の産業革命遺産」のひとつ 三重津海軍所跡



▲旧武雄鍋島家庭園 鍋島茂義銅像の前

れた本丸御殿を見学し、佐賀藩の歴史を学びました。続いて訪ねた徴古館には、鍋島家に伝わる貴重な資料が収蔵されています。開催中の「鍋島家伝来磁器展」を、学芸員の富田紘次さんにご説明いただき、鍋島焼の精巧な細工に、みんな目を見張っていました。そこから早江津川へ向かい、三重津海軍所跡と隣接する佐野常民記念館を、館長の諸田謙次郎さんのご案内で見学。VR(バーチャルリアリティ)でかつての様子を体感し、佐賀藩の海軍の活動や、常民の活躍に思いを馳せました。最後に夕暮れの迫る中、箕作阮甫も見学

した築地反射炉の跡地を訪ねて1日目の行程を終えました。

2日目は、武雄市図書館・歴史資料館の一ノ瀬明子さん、西田いずみさんが、武雄鍋島家ゆかりの史跡をご案内してくださいました。武雄を治めた鍋島家の28代領主茂義は、多くの西洋の文物を収集、種痘や大砲なども他に先駆けて導入し、その活動が佐賀本藩での洋学導入につながったのだそうです。

さらに創業400年を迎えた有田焼のふるさと有田町へ。森永邦彦さん、中尾安隆さん、大石英代さんのご案内で、九州陶磁文化館や町並みをめぐり、最後に唐津で名物のイカ料理をいただいて帰途につきました。各見学地で詳しいご説明をいただいて充実した内容の研修となり、帰りの車中では「佐賀はすごい！」との声があちこちであがっていました。

## 創立35周年記念祝賀会

### ・第8回オランダ料理の夕べ・

11月19日(土)には、津山国際ホテルで創立35周年記念祝賀会を開催しました。日下和夫会長の挨拶に続いて、宮地昭範市長に祝辞をいただき、それから、下山純正先生に「なぜ蘭学者たちは新元会(オランダ正月)を開いたのか」とのテーマで、

当時の歴史的な背景も含めて、オランダ正月の料理についてお話しいただきました。

そして東洋大学教授の岩下哲典先生のご発声で乾杯し、いよいよ料理がスタート。今回は、森島中良著『紅毛雑話』に記されている大槻玄沢が長崎で食したオランダ料理の中から8品を選び、フルコース風にして再現しました。料理長の藤枝進さんから、当時の調理方法についてのお話しもあり、参加された方々は、現代とは少し違った料理に、興味深そうに舌鼓を打っていました。



▲祝賀会の様子 料理をカメラにおさめる方も多かったです。

## 史跡見学会

12月10日(土)には、第29回史跡見学会を実施しました。今回は、緒方洪庵、難波抱節、石坂桑亀の三人に焦点をあて、ゆかりの地をめぐりました。

適塾で箕作秋坪や福澤諭吉ら多くの門人を育てた緒方洪庵は、天然痘予防の牛痘種痘を広めたことでも知られています。最初に訪れた足守では、洪庵の生誕地と、その近くにある足守での種痘普及の拠点となった除痘館跡地を訪ねました。

この除痘館には洪庵の門人や近隣の医師たちが訪れ、種痘法の指導を受けました。御津金川の医師難波抱節もその一人です。抱節は自身も幼い娘を天然痘で亡くしていたため、20歳も年少の洪庵に厭うことなく教えを請うたといわれます。抱節が歩いた道に思いを馳せながら足守から金川へ移



▲緒方洪庵生誕地



▲難波抱節塾跡 かつての表門と伝えられています。



▲石坂桑亀の父多作の墓所

動し、抱節の医塾忠誠堂跡(現在の妙覚寺)や門人の建てた顕彰碑を見学。さらに宇甘川の対岸にある墓所へお参りしました。次いで国道53号線を北上し、福渡でシールト門人石坂桑亀の墓所にお参りしました。桑亀は吉益南涯や華岡流の合水堂で学んで福渡で医業を開きました。長崎へ遊学して鳴滝塾で教えを受けると福渡へ戻り、一時は足守藩医も勤めました。後に倉敷に移り住みますが、妻の没後、晩年を過ごしたのも福渡でした。

最後に桑亀の出身地、美咲町境へ。ここには現在も桑亀の父多作らの墓所があり、石坂家のご後裔である石坂徹泰さんがご案内をしてくださって、お参りをしました。

12月にはめずらしい暖かい日で、各地で地域の医療のために尽くした医師たちの活動を偲び、充実した一日となりました。

写真の図は、肩の脱臼治療の様子を描いたものです。世界で初めて全身麻酔下での乳癌摘出手術に成功したことで知られる華岡青洲の整骨法の一つで、「青洲華岡先生整骨図法」などの史料名で各地に写本が伝存しています。

人物の服装などから一見漢方の医術のように感じますが、実は西洋の医術。17世紀後半に日本へ舶載されたフランスの医師アンブローズ・パレ (Ambroise Paré 1510?~1590) の外科書に同様の棒を使った治療法が掲載

されており、その影響を受けていることが指摘されています。\*

本史料は、津山藩医を勤めた久原家に伝来したものです。久原家は、津山藩主森家の家臣宗清良政に始まります。その跡を継いだ甫雲は、幕府の医官西玄甫からオランダ流の外科医術を学びました。津山に先駆的に西洋医学をもたらした医師なのです。

甫雲は、森家の改易後入封した松平家にも登用され、以降廃藩置県にいたるまで、久原家は160数年にわたって代々藩医を勤めま

した。

史料には表題はなく、写した人物や年代なども記されていません。しかし、久原家の8代玄順（玄順の子宗哲、9代洪哉が華岡流の医塾合水堂へ入門しているので、3人のうちの誰かが写している帰ったと考えられます。藩医たちが、弛むことなく新しい医術を習得しようとしていた様子を伝える、貴重な史料のひとつです。

文：学芸員 田中美穂

\*1 アンブローズ・パレ没後400年記念会編『日本近代外科の源流 アンブローズ・パレ』1992年

資料館展示品から

津山藩医久原家に伝わった  
「外科医術絵巻」



▲お話をされる齋藤先生(上)と佐々木先生(中)家伝葉の展示コーナー(下)



冬季企画展 山田純造生誕180周年記念  
海田の医家山田家の人と学問

就実大学薬学部企画協力  
平成28年11月19日(土)~平成29年2月19日(日)

山田家は、海田(現在の美作市海田)で、江戸時代の前期から代々医業を営んできた家系です。医家として六代目にあたる純造は、大坂にあった華岡流の医塾合水堂で学び、種痘の普及にも尽力しました。山田家の医院仙巖堂には、治療を求める人たちが、雲がわくように集まったといわれています。

山田家には多くの医学書や医療器具が伝来しており、平成3年から順次当館へ寄託していただいています。これらの資料は、華岡流という蘭漢折衷の医学を習得した医師の学問や医療活動の様子を知ることができる、大変貴重なものです。山田家は、美作地域の医学史を語る上で、特に重要な家系の一つといっても過言ではありません。

本展では、純造が生誕180周年を迎えるにあわせ、山田家の人々とその医業についてご紹介しました。

また、12月4日(日)には、関連講座として「よみがえる山田家伝来の家伝葉―成分分析の結果と処方再現―」を開催しました。山田家は吸出膏薬、万能膏薬などの家伝葉も人気を博し、美作一円で広く使われていたといえます。平成22年から、就実大学薬学部の洲崎悦子先生、齋藤啓太先生が、山田家に伝来する薬の成分分析に取り組んでくださっており、その結果についてお話しいただきました。あわせて佐々木寛朗先生が処方記述をもとにして、薬の再現実演をしてくださいました。参加された方々は、興味深そうに身を乗り出してお話を聞き入り、終了後には先生方に積極的に質問もしていました。

最後になりましたが、本展および関連事業の実施にあたりましては、山田家の皆さまをはじめ関係各位に多大なるお力添えを賜りました。ここに記して厚くお礼申し上げます。

NEWS FILE

久原家伝来資料が  
寄贈されました

久原家資料は、かねてより当館へ寄託をいただいておりますが、昨年3月に久原躬弦関係資料が化学遺産に認定されたことを機に、全636件718点の資料を寄贈していただくことになりました。甫雲が西玄甫から贈られた「阿蘭陀流外科免許状」など、津山の医学、洋学を知る上で、いずれも貴重な資料ばかりです。

9月18日に、久原玄治さん、宗雄さん、弦夫さん、章雄さんが資料館を訪問。宮地市長から感謝状を贈呈しました。



# INFORMATION

平成29年度の催し物(予定)

企画展

4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「箕作家の人々 -秋坪の4人の息子たち-」</li> <li>23 第72回文化講演会「箕作の名をもらった魚たち」 講師：神奈川県立生命の星・地球博物館 瀬能宏先生</li> <li>23 友の会総会 (休館日：17・24日)</li> </ul>	3/4~ ・秋坪の4人の息子たち・ 箕作家の人々 ~6/18
5月	(休館日：1・2・8・9・15・22・29日)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会研修バス旅行 (休館日：5・12・19・26日)</li> </ul>	7/1~
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「和時計 -西洋の技、日本の心-」(仮)</li> <li>29 親子でヒンデローペンの作品づくり</li> <li>30 ヒンデローペン絵付け体験教室 (休館日：3・10・18・19・24・31日)</li> </ul>	・西洋の技、日本の心・ 和時計 ~9/24
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の化学書からの再現実験教室 (休館日：7・14・15・21・28日)</li> </ul>	
9月	(休館日：4・11・19・20・25・26日)	
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「絵画史料にみる江戸の洋楽事始」(仮) (休館日：2・10・11・16・23・30日)</li> </ul>	10/7~ ・絵画史料にみる江戸の洋楽事始・ 事始(仮) ~11/5
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>企画展「日本の化学の夜明けと津山の洋学者」(仮)</li> <li>津山洋学資料館・上廣歴史文化フォーラム (休館日：6・7・13・20・24・27日)</li> </ul>	11/18~ 日本の化学の夜明けと 津山の洋学者(仮) ~2月下旬
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>友の会史跡見学会 (休館日：4・11・18・25・26・29~31日)</li> </ul>	
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>28 学芸員による研究報告会 (休館日：1~3・9・10・15・22・29日)</li> </ul>	
2月	(休館日：5・13・14・19・26日)	
3月	(休館日：5・12・19・22・26日)	

■企画展 ■催し物 ■講演会 ■友の会

平成29年度春季企画展

## 箕作家の人々

-秋坪の4人の息子たち-



会期：平成29年3月4日(土)~6月18日(日)

・・・刊行物のお知らせ・・・

■ 洋学研究誌『一滴』第24号を刊行します。

目次

- 『菩多尼訶経』の危うさ …幸田正孝
- 箕作阮甫による蘭語の博物館関連用語の和訳について …臺 由子
- ナポレオン伝と箕作阮甫  
— ベルアリアンセ/スコーンフルポンド戦記を中心に — …野村正雄
- 柴田収蔵の集書活動  
— 『柴田収蔵日記』に出る蘭学関係書 — …吉田 忠
- 平成27年度企画展報告  
久原躬弥生誕160周年記念 津山藩医久原家の幕末・明治  
明治天皇の侍医頭 岡玄卿  
解剖図の世界 — 江戸から現代へ —  
津山藩の絵師鋤形家と洋学者
- 『錦窠先生通信録』坤、補にある伊藤圭介の川口齋宛書簡の翻刻 …土井康弘

3月末刊行 800円

## ご利用案内

- 開館時間/9:00~17:00  
(入館は16:30まで)
- 休館日/月曜日(祝祭日の場合はその翌日)  
祝祭日の翌日・年末年始(12月29日~1月3日)
- 入館料/

一般	高校生・大学生
300円 (240円)	200円 (160円)

※( )内は30名以上の団体料金です。  
※小学生・中学生は無料です。

 **津山洋学資料館**  
TSUYAMA ARCHIVES OF WESTERN LEARNING

〒708-0833 岡山県津山市西新町5番地  
TEL(0868)23-3324 FAX(0868)23-9864  
URL <http://www.tsuyama-yougaku.jp>



- 交通のご案内
- ・JR津山駅から東循環ごんごバス南廻り線で12分、西新町下車徒歩2分
- ・中国自動車道 津山ICから車で15分・院庄ICから車で20分